

日本情報考古学会第43回大会のご案内

日本情報考古学会第43回大会を下記の要領で開催いたします。意義ある大会としたいと考えておりますので、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

日本情報考古学会第43回大会実行委員会

期日：2020年3月28日(土)・29日(日)

会場：大阪大学 豊中キャンパス (大阪府豊中市待兼山町1-16)

全学教育推進機構 講義B棟 1階 共B118教室

阪急電車宝塚線 石橋駅から東へ徒歩約15分。または大阪モノレール 柴原駅から徒歩約7～15分

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/facilities/#access>

特別講演

考古学理論とその比較

Old Archaeology vs. New Archaeology

植木 武 先生 共立女子学園名誉教授

3月28日(土)

16:25-17:25

第1日 3月28日(土) 講義B棟 1階 共B118教室 13:00-17:25

13:00-13:10 開会式 挨拶：大会実行委員長 佐藤宏介

研究発表1 13:10-13:30 日本遺産をめぐる考古学的研究(Ⅲ)―文化財ツーリズムの推奨に向けて―
鈴木重治

研究発表2 13:30-13:50 3D計測データによる土器研究のあらたな展開(1)―東京都大田区久ヶ原遺跡採集
弥生土器の再検討―

野口 淳(NPO南アジア文化遺産センター／奈良文化財研究所客員研究員)、斎藤あや(大田区立郷土博物館)、
植木雅博(船橋市教育委員会)、轟 直行(八千代市教育委員会)、小林 嵩(千葉市埋蔵文化財調査センター)、
千葉 史(株式会社ラング)、横山 真(同)

研究発表3 13:50-14:10 3D計測による土器研究のあらたな展開(2)―大阪府船橋遺跡採集弥生土器(水差形
土器)の整形・調整・施文技法の検討―

野口 淳(NPO南アジア文化遺産センター／奈良文化財研究所客員研究員)、中尾智行(大阪府立弥生文化博物
館)、千葉 史(株式会社ラング)、横山 真(同)

研究発表4 14:10-14:30 実測図を利用した形態の定量的解析の有効性
館内魁生(東北大学大学院文学研究科)

研究発表5 14:30-14:50 形状差分可視化に基づく形状類似度評価法の検討
早坂啓太(岩手大学)、古川 勝(株式会社ドリコム)、今野晃市(岩手大学)、太郎良真妃(鹿児島国際大学大学院)、
中園 聡(鹿児島国際大学)、千葉 史(株式会社ラング)

————— 休憩 ————— 14:50-15:00

研究発表6 15:00-15:20 JG-1による標準化法とは
三辻利一(奈良教育大学名誉教授)

研究発表7 15:20-15:40 K、Ca、Rb、Srは何故、有効に地域差を示すのか？
三辻利一(奈良教育大学名誉教授)

研究発表8 15:40-16:00 磁化測定による中世古銭の判別および製法の研究
伊藤光雅(サレジオ高専)、酒井英男(富山大学理学部)

研究発表9 16:00-16:20 磁化特性による青銅製品の研究
酒井英男(富山大学)、長柄毅一(同)、中村和之(函館高専)

————— 休憩 ————— 16:20-16:25

特別講演 16:25-17:25 考古学理論とその比較 Old Archaeology vs. New Archaeology

植木 武 先生 共立女子学園名誉教授

第2日 3月29日(日) 講義B棟 1階 共B118教室 10:00-15:15

研究発表10 10:00-10:20 造営尺推定における検定方法
西村 淳(函館大学)

研究発表11 10:20-10:40 前方後円墳の後円部半径推定プログラムの開発
西村 淳(函館大学)、西村匠悟(京三システム株式会社)

研究発表12 10:40-11:00 考古学ビッグデータを分析可能にする文化財関係用語シソーラスの構築
高田祐一(奈良文化財研究所)、野口 淳(同)

研究発表13 11:00-11:20 複数手法の併用による横穴式石室の3D計測と形態比較研究
岩村孝平(古墳見学者)、瀬谷今日子(和歌山県立紀伊風土記の丘資料館)、金澤 舞(同)、野口 淳(NPO南ア
ジア文化遺産センター／奈良文化財研究所客員研究員)

研究発表14 11:20-11:40 人工知能による機械学習を用いた須恵器資料の断面形状分析
井上隼多(名古屋大学大学院人文学研究科)、堀 涼(名古屋大学情報学部)、川西康友(名古屋大学大学院情報
学研究科)、村瀬 洋(同)、梶原義実(名古屋大学大学院人文学研究科)

11:40- 総会 ————— 休憩 ————— 昼食は各自でお願いします。

研究発表15 13:10-13:30 岡山後楽園所在の「大立石」について(第3報)―鹿児島市内の島津家庭園に見られ
る類例―
三瓶裕司(九州大学大学院／財団法人かながわ考古学財団)

研究発表16 13:30-13:50 4次元ウォークスルーCGによる合戦情報の可視化技術の開発と検証―関ヶ原の戦
いを事例に―
木村寛之(株式会社イビソク)、宇田 晃(有限会社アシストコム)

研究発表17 13:50-14:10 古文書字形画像検索のための画像処理手法の実装
未代誠仁(桜美林大学)、白井啓一郎(信州大学)

研究発表18 14:10-14:30 北部九州弥生時代の集落立地変化と高地性集落の評価―GISを用いた空間分析から―
宇佐美智之(立命館大学)

研究発表19 14:30-14:50 道具としての手―平安時代須恵器壺におけるタタキ技法の一類型―
平川ひろみ(鹿児島国際大学)、中園 聡(同)

研究発表20 14:50-15:10 中国考古学の特質とその変化―予備的検討―
楊 帆(鹿児島国際大学大学院)

ポスターセッション (第2日 12:40-13:10 ※掲示は両日)

研究発表21 ひかり拓本データベースの構築
上相英之(国立文化財機構)、上相真之(高輝度光科学研究センター)、多仁照廣(若狭路文化研究所)

研究発表22 弥生時代における受傷のパターン
中川朋美(岡山大学大学院社会文化科学研究科)

研究発表23 SfM-MVSによる土器片の効率的な三次元記録―実践的一試行―
太郎良真妃(鹿児島国際大学大学院)、中園 聡(鹿児島国際大学)、平川ひろみ(同)、若松花帆(同)、下小牧潤
(鹿児島県立埋蔵文化財センター)

研究発表24 特殊器台の観察視点とデジタル記録
中園 聡(鹿児島国際大学)、平川ひろみ(同)、太郎良真妃(同)、若松花帆(同)／春成秀爾(国立歴史民俗博物館)

当日参加も可能ですが、会員/非会員にかかわらず事前に学会HPの「参加者申込フォーム」(または学会事務局宛にメール)でお知らせ下さい。【お申込みの方は受付の簡略化・講演論文集等の確保等をいたします】

大会参加費(『日本情報考古学会講演論文集』Vol.23(通巻43号)込み) 会員2000円、非会員3500円

新型コロナウイルス拡大に関する状況は日々変化していますが、日本情報考古学会第43回大会は開催する方向で準備を進めています。開催については以下の方針で臨みますのでご確認のうえご協力をお願いいたします。

▽1日目夕刻の懇親会は中止します(近接対話を目的とし、飲食でマスクを装用できないため)。▽参加者はマスクの装用を推奨します。▽発表者はマスク装用の登壇・発表を認めます。▽発熱者、咳やくしゃみなど風邪様の症状のある方の入場はお断りします。▽会期中の手洗いを推奨します。アルコール消毒薬も設置します。

※なお、上記方針は随時見直します。状況の変化により万一中止などの場合は、概ね3月20日を目途に本学会ホームページでお知らせする予定です。

大会関係の追加情報・変更等は学会HPで逐次ご案内します。必ずご確認下さい。 <https://www.archaeo-info.org/>

お問い合わせ等は、学会事務局まで。必ずメールでお願いします。

※当初予定していた夕刻の懇親会は中止します。 ※発表時間・順番が変更になることがありますのでご了承ください。